

NEWS

国立新美術館 ニュース

2015
— 春号

マグリット展

目に見えるものの背後には、
常に何か違うものが隠れている

※本画像は著作権使用許諾の条件上、現在表示できません。

新

EXHIBITION

展覧会

日本最大級の展示スペースを生かし
多彩な展覧会を開催しています

企画展 マグリット展

目に見えるものの背後には、
常に何か違うものが隠れている

※本画像は著作権使用許諾の条件上、現在表示できません。

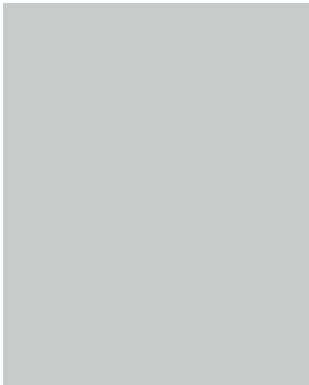
世界でもマグリット作品を際立って多く所蔵しているベルギー王立美術館との共催により、充実の作品ラインナップが実現した今回の「マグリット展」。本展担当であり、国立新美術館副館長の南雄介にマグリットの魅力について聞きました。

—マグリットはどういう作家ですか？

ルネ・マグリットは、シュルレアリスム(超現実主義)の代表的な作家です。シュルレアリスムの多くの作家は、人間の本質は理性よりも「無意識」の中にあると考えていましたが、マグリットは不条理な情景を描くことで「現実には潜む神秘」を表

現し、独自の地位を築きました。人間は、頭の中にある約束事やシステムに当てはめて物事を理解することで、日常生活を支障なく営んでいますよね。例えば我々はペンを見て、「これはペンであり、書くためのものだ」と通常認識していますが、「果たしてこれは本当にペンなのか」という疑いの目をもって見ると、一瞬で不思議な感覚に陥ると思います。目に見える世界は、我々が思っている世界とは本当は違うかもしれないのです。

この《人間の条件》という作品では、カンヴァスの中身と窓の外の世界が一致しているように見えますが、カンヴァスの背後にあるものを隠しています。カン



〈絵画の中身〉1948年 エリック・ドセール
National Gallery of Art, Washington, Gift of the
Collectors Committee, 1987.51 © Charly
Herscovici / ADAGP, Paris, 2015

※本画像は著作権使用許諾の条件上、現在表示できません。

ヴァスと窓の外の世界が実際に一致している保証はどこにもありません。マグリットはそういった「目に見えるものの背後には、常に何か違うものが隠れているかもしれない」という「現実に潜む神秘」を提示しているのです。

— マグリット作品で「空」が印象的ですが、 どんな意味を持っていますか？

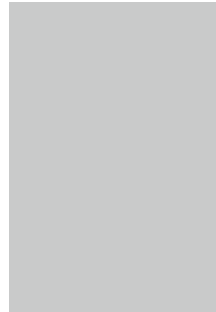
空は、目に見えますが、誰も触れることはできません。物体ではありませんし、色がついているわけでもなく、空気中の光の屈折を見て、我々は空を認識しているのです。「イメージ」としてしか存在しないものであり、実体がないのですよね。もしかしたら今この場所から10km先に空の絵を描いた大きな幕が垂れ下がっているのかもしれない。マグリットが描くまさに絵に描いたような嘘っぽい空は、我々の日常世界に紛れ込んでいる「究極の偽り」のようにも見えますね。マグリットの世界にとって、一つの重要な要素となっていると思います。

CURATORS' VOICE



国立新美術館副館長・
南雄介に、お気に入りの
マグリット作品を聞きました。

《絵画の中身》が好きです。「教科書のような没個性的な描写スタイルの画家」と言われるマグリットには珍しく、画面に力強い筆触が見える作品です。本当はこのような筆使いで描きたかったのかなと想像してしまいますね。また、登場人物の身体から絵の具が垂れている様は、「絵に穴をあけると絵の具が出てくる」という「絵画」によって「絵画」を語ろうとするアプローチで、時代の先をいっていたと思います。



〈絵画の中身〉1948年 エリック・ドセール
Eric Decelle, Bruxelles © Charly
Herscovici / ADAGP, Paris, 2015

※本画像は著作権使用許諾の条件上、現在表示できません。

マグリット展

会 期：2015年3月25日(水) — 6月29日(月)
休 館 日：毎週火曜日(ただし5月5日・26日は開館)
開館時間：10:00~18:00
金曜日、5月23日(土)、24日(日)、30日(土)、
31日(日)は20:00まで開館
4月25日(土)は22:00まで開館
※入場は閉館の30分前まで
会 場：企画展示室2E

日本の社会やテクノロジーと マンガ、アニメ、ゲームのつながりとは？

日本のマンガ、アニメ、ゲームは、今や世界に誇れる芸術のひとつです。今回、国立新美術館が新たな取り組みとして開催する本展は、1989年から現在までの25年間に焦点をあて、この年代に創られた

3つのジャンルの作品を「現代のヒーロー&ヒロイン」や「テクノロジー

やインターネットが生み出したもの」などのテーマで概観します。今、作品はその世界を超えて現実と様々な形で重なり合っています。同時代の日本人が創り出したマンガ、アニメ、ゲームに触れることは、その時々日本の社会を垣間見る機会となるでしょう。

ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム

会 期：2015年6月24日(水) — 8月31日(月)

休 館 日：毎週火曜日

開館時間：10:00~18:00 金曜日は20:00まで開館

※入場は閉館の30分前まで

会 場：企画展示室1E

マンガ、アニメ、ゲームの 歴史がわかる展覧会公式書籍発行

現代の日本のマンガ、アニメ、ゲームの流れと相互のつながりについての論考が掲載された書籍を、展覧会にあわせて発行します。この書籍は、1989年以降の25年間を中心としたマンガ、アニメ、ゲーム史に加えて、CGやインターネットとの関わりについて考える論考、「マンガ」「アニメ」「ゲーム」「社会」「テクノロジー」「美術」の6項目を並走させた年表や、時代を象徴する作品の解説などで構成された、約400ページにわたる展覧会公式書籍です。現代のマンガ、アニメ、ゲームの歴史を知る入門書としても、ぜひご覧ください。

展覧会公式書籍「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」(仮)

執筆：中野晴行、氷川竜介、さやわか、三輪健太郎、渡邊大輔、石岡良治、
岩下朋世、大口孝之、宇野常寛、大橋崇行、阿部芳久 他

公募展

国立新美術館は、全国的な活動を行っている美術団体等へ発表の場を提供しています。

公募団体等の活動

「三軌展」

三軌会は、戦後間もない昭和24年に水彩画の団体として創立しましたが、その後いくつかの変遷を経て、今日では絵画、彫刻、工芸、写真の4部から成る間口の広い、言ってみれば、書道以外なんでも搬入OKの公募団体として運営しております。当団体の特色は、「自由度の広さ」にあります。作品の個性尊重、どんな様式、傾向の作品も可、自由な表現を奨励し、実力本位の審査を心掛けております。力のある新人作家が思う存分「暴れまくる」にはうってつけの環境が整っていると云えましょう。

毎年春季、国立新美術館の2階AB、CDを会場として「三軌展」を開催しており、会期中には、作品合評会、講演会、ギャラリートークなどを行っているほか、展示作品については、一部ながら、作家が自作品のことをコメントしたボードを掲示し、来観者の参考に供しております。なお、この三軌展本展開催後は、仙台、名古屋、京都の三地区に巡回し、なるべく多数の皆様方との絆を大切にしよう心掛けております。

(三軌会)



第66回展彫刻部会場にて

館内レストラン&カフェにて、 「マグリット展」特別メニューを提供

現在開催中の「マグリット展」にちなんだ特別メニューを館内レストラン&カフェにて提供いたします。マグリットの絵画をイメージした展覧会特別メニューやドリンクをお楽しみいただけます。展覧会鑑賞後、ディナータイムのレストランご利用もおおすすめです。



2階「サロン・ド・テロンド」のマグリット展特別ドリンク

TABERU 2015 2015年4月1日(水)―6月8日(月)

「TABERU―たべる」こと、それはわたしたちの身体とところをつくる、生きる喜び。ディレクターにうつわ祥見主催祥見知生氏をむかえ、日々の食卓を支えるうつわをいまいちど見つめなおす企画展を行います。



写真・木村文香
料理・イチカフヨウスケ
器・吉田直嗣

PICK UP

ピックアップ

5月18日「国際博物館の日」は 国立新美術館へ

国際博物館会議（ICOM）は、博物館の役割を広く人々に知ってもらうために、5月18日を「国際博物館の日」に制定しました。毎年この日を中心に、世界各地の博物館・美術館で様々な記念行事が行われています。国立新美術館でも、「国際博物館の日」に特別サービスや記念イベントを実施する予定です。この記念日すべき日に、ぜひ国立新美術館へも足を運んでみてください。



2014年5月18日に国立新美術館で開催された「『国際博物館の日』シンポジウム～世界博物館大会の京都開催に向けて～」の様子

EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

国立新美術館の サポート・スタッフへの インタビュー



姫野久実さん

田中礼さん

古川智崇さん

サポート・スタッフとは、美術館の事業に興味のある学生を対象とした、登録制ボランティアのこと。毎年多くの方が登録し、講演会やワークショップから事務作業まで幅広く活躍しています。今回は、様々なサポート活動に参加経験のある3名にお話を伺いました。

印象に残っているサポート活動

田中：ホンマタカシさんのワークショップ（2013年『写真』以前/暗黒を作り出そう）が、すごく大変だったけれど達成感がありました。ワークショップをつくっていくプロセスがとても印象に残っています。

古川：堂本右美さんのワークショップ（2014年『はじめてのアート』）。子どもにとって初めての美術体験がどう行われるといいのか、考えさせられました。

姫野：講演会のお手伝いにもたくさん参加しましたが、その中でも、カフェアオキが印象に残っています。館長のお話を聞く機会は貴重なので。

サポート活動に参加して学んだこと

田中：お客さんに対する心遣いや思いやりを、身をもって感じました。以前は、美術館で作品を見るのは当たり前だと思っていましたが、その当たり前をつくるために、研究員さんやスタッフの方が考えてくださっていることを知りました。

これから登録を考えている人へ

田中：サポート活動では、美術館の万華鏡を見ることができると思います。いろんな世界を見てみたいと思っているのであれば、登録すべきだと思います。

古川：僕は、経験っていうものを強調したいと思いますね。受け身にならずに主体的に行動することができる。

姫野：ここは新しい世界に出会える場所。いろんな専攻の方が登録しているように、美術にちょっと興味があるけど敷居が高いと思っている人でも楽しめる、関わるのがサポート・スタッフ制度です。

※サポート・スタッフの募集について：毎年4月に国立新美術館のホームページ上で募集告知しています。

※このインタビューのロングヴァージョンを、募集告知のページにて公開しています。

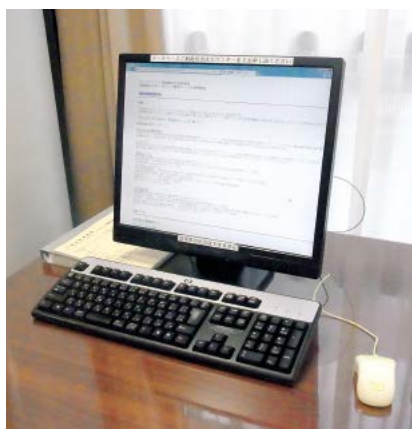
アートライブラリー別館閲覧室 データベースのご紹介

国立新美術館のアートライブラリーでは、美術関連の図書や展覧会カタログ、雑誌等の資料だけではなく、データベースサービスもご利用いただけます。今回は、アートライブラリー別館閲覧室でご覧いただけるデータベースサービスについてご紹介いたします。

アートライブラリー別館閲覧室では、国立情報学研究所の情報検索サービス「CiNii Articles」、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手困難な資料を閲覧できる「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」、雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」、朝日新聞・週刊朝日・AERAの記事を検索、全文表示するデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」、読売新聞の創刊号から現在までの記事を検索、全文表示するデータベース「ヨミダス歴史館」がご利用いただけます。

以上のデータベースのご利用はアートライブラリー別館閲覧室(別館1階)が開室している月・水・木・金曜日の11時から

18時まで、プリントアウトは17時15分までとなっております。1回のご利用につき60分まで、次のご予約がない場合は継続して1回のみ60分の延長ができます(ただし次の利用者の方がいらした場合は途中でお譲りください)。アートライブラリー別館閲覧室では、皆様のご利用をお待ちしております。



アートライブラリー別館閲覧室検索端末